

UIUC もいよいよ3月に入り、時が過ぎるのを早く感じている。一週間に10前後の日と0前後の日が何度も繰り返されるので、体温調節が非常に難しい。特に、日中はとても暑く、夜になると急に冷え込むという日があるので、十分注意したい。今回の報告は主として、現在履修している科目と講義の経過、Spring break 中のボランティア活動について報告する。

<春学期の履修科目>

- ESL 114 : Introduction to Academic Writing
- ME 330 : Engineering Materials
- ME 390 : Seminar
- PHYS 140 : How Things Work
- ASTR 100 : Perspectives in Astronomy

ESL 114

この科目は writing のクラスである。クラスの雰囲気はいつも楽しく、先生はブラジル出身の方だが、英語の発音やアクセントはほとんど無くパーフェクトである。近日の授業では、以前提出した essay の結果が発表された。essay の提出は合計で5回あるが、1回の essay に2回以上の直し期間が設けられているので、直せばある程度の評価を得ることができる。

ME 330

この科目は、曲げ、破壊、疲労、クリープ現象、腐食、磨耗などの現象がどのようにして生じるのか、また、このような現象をどのようにして防ぐのか機械構造をもとに学習するクラスである。この授業は週2回の講義と週1回の実験で構成されており、週初めの講義の後には課題が出され、次週までに済みますのが通常のスケジュールである。

ME 390

この科目は、Mechanical Engineering 専攻の学生を対象とした Seminar のクラスである。このクラスでは特に大きな課題等は要求されないが、今学期受けている科目の中で唯一、出席点を取るクラスである。こちらでは、ほとんどのクラスで出席確認を行わないので、出席するかしないかは、学生自身の自己責任になってくる。すなわち、授業に出席しなくても、テストで良い点を取れば OK というわけである。このような学生は、私が知っている中でもたくさんいる。

PHYS 140

この科目は、基本的な物理現象を学ぶクラスである。私が入っている lab の担当をしている TA は本当に優しい方で、日に日に lab の内容は難しくなるので、理解に苦しむことが多いが、親切に review を行ってくれるので非常に助かっている。また、spring break 前に第二回目の Exam が行われ、今回も何とか時間内に終わることができた。しかし、exam は何度受けても緊張するものである。

ASTR 100

この科目は、太陽・惑星・月・星等を題材とした惑星の動きや星の観測方法、光の反射や屈折などの原理・現象、望遠鏡の仕組みや種類など、物理現象を元に解説される天文学の基本的な知識を学ぶ授業である。先日のクラスでは、二回目の天体観測が行われた。天体観測は野外で行われ、天体望遠鏡で星や月の様子を見ることができる。

## City Lights St. Louis Urban Project

UIUCにも一週間の Spring break があり、この期間を利用して Christian group の IFL(International Friendship Link)と共にセントルイスへ行き、ボランティア活動を行った。先に述べるが、今回の経験は私にとって今までに無い貴重な体験となった。

City Lights とはセントルイスを中心に活動するボランティア団体である。今回、私達はこの団体がオーガナイズするボランティア活動に参加した。ボランティア活動の内容は、貧しい地域の人たち、特に年配の方へのケアや修復必要な家屋のリフォーム、貧しい子供達への英語教育などバラエティーに富んだ内容であった。

1日目と2日目はボランティア活動の説明会やチーム分け、セントルイス内にある有名スポットの観光などを主に行った。特に印象的であったのは、Cathedral of St. Louis と呼ばれる教会の見学である。この教会は私が見てきた中で一番大きく、印象に残る教会であった。天井に描かれた絵や建物自体が醸し出す雰囲気が歴史を感じさせるものであった。また、2日目には City Lights の活動を支援する家族のお宅を訪問した。私が訪問した家族の夫婦は5人の子供を adopt(養子)しており、5人とも産まれた場所や年齢などが違っていた。その夫婦は本当の家族のように育て、教育しており、とても感動した。アメリカは日本に比べ adopt している人が多いので、普通のことのようにだが、アメリカ人の寛大さを目の当たりにした。

3日目からは本格的にボランティア活動が開始された。私は、registration の際に mechanical engineering でサインアップしたので、more than carpentry という会社のオーナーと4人のチームメイトで部屋造りを行った。Dry-wall と呼ばれる乾式壁工法の部分を協力することとなった。実際このような体験は初めてであったので予想以上に大変であった。特に苦労した点は単位の違いである。日本ではメートル法が主流であるが、アメリカでは主として長さの単位にインチ、重さの単位にポンドを使用する。今回の work 中に材料の寸法確認を幾度と無く行ったが、その際、インチでコールされると一体どれぐらいの大きさのことを言っているのかイメージが掴みにくく苦労した。

City Lights のリーダーは少し年配の方であったが、非常に活気があり、私達に少しでも時間があれば色々なことを教えようとする姿勢が見られた。その一つに、食事前の bible study が挙げられる。毎日の食事は基本的に、準備された食事を各自が食器を持って取りに行くシステムとなっている。しかし、その前に各テーブルに用意された bible seat を各自が読み上げ、意見をシェアしなければならなかった。しかし、特に夕食時は皆、work の後でお腹が空いており、bible seat を速読して颯爽と食事を取りに行く人達が多数見られた。また、食事中には各チームで行った work 内容が違うので、各チームの代表が前で work 内容をシェアする時間も設けられていた。この時、何処からとも無く手拍子が沸き起こり、次の発表者の名をコールし、無理やり前に出ざるを得ないような雰囲気を作り出すアメリカ特有のユーモアが見られた。特に毎回コールされる学生がおり、彼はいつも驚いた様子で嫌々前に行くようなジェスチャーを見せるものの、彼の話はいつもユーモアに溢れ、皆を笑わせていた。夕食中、彼を引きずり出すことが一つのお決まりのようになったのは言うまでもない。

この一週間のボランティア活動は私にとって色々と考えさせられるものとなった。最初は皆、知らない人達であったが、一週間部屋を共にし、同じように毎日ボランティア活動を通す中で、皆家族のように仲良くなった。また、アフリカから訪問された方々の講義や City Lights のボランティア活動を協力している家族や団体と触れ合い、話を交わす中で、今まで見えなかったものや、気づかなかったものが沢山あったのだと実感した。この一週間のボランティア活動を通して、自分にできる範囲のことでいいから行動してみることが大事であると思った。



図 1. City Lights St. Louis Urban Project

その他

UIUCへ交換留学してからおよそ10ヶ月が経過した。時は早いもので、もうすぐしたら帰る準備をしなければならない。こちらで過ごした時間は本当に貴重なもので一生の宝物である。気候的にも暖かくなってきており、activityをするにはもってこいの時候である。残りわずかの日々を充実させ楽しい留学生活にできるよう努力する。

以上